

松戸市社会教育委員会議会議録

令和 5 年 度 第 2 回

令和5年度第2回 松戸市社会教育委員会議

○令和6年3月26日（火曜日）

○出席委員

長江委員長 奈賀副委員長 大野委員 安達委員 阿部委員
坂委員 大成委員 小林委員

○欠席委員

千石委員 米原委員

○市側出席者

伊藤教育長 藤谷生涯学習部長
臼井社会教育課長 社会教育課（齋藤（雅） 杉本 岩間）

○次第

1 議 事

- （1）社会教育関係団体に対する補助金及び交付団体との意見交換について
・松戸史談会

2 その他

長江委員長 本日の会議は、松戸市情報公開条例に基づき公開の対象となっております。本会議を公開としてよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

長江委員長 ありがとうございます。

それでは、傍聴人の状況につきまして、事務局よりご報告いただきます。

事務局 本日、社会教育委員会議に、1名の方から傍聴の申出がありました。

長江委員長 それでは、傍聴を承認しますので、傍聴人に入室をよろしくお願いします。

(傍聴人入室)

長江委員長 それでは、議題に入る前に、今回の議事録の署名につきましては、大野委員と安達委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

長江委員長 よろしくお願ひいたします。

◎社会教育関係団体に対する補助金及び交付団体との意見交換について

長江委員長 それでは、皆様方のお手元に配られております社会教育委員会の次第に沿いまして進行をさせていただきたいと思います。

本日は議題が1つございますが、内容につきましては、こちらの次第に書いてあるとおりで、「社会教育関係団体に対する補助金及び交付団体との意見交換について」であります。

それでは、事務局より説明のほうをよろしくお願いします。

社会教育課長 社会教育課長です。

それでは、議事の社会教育関係団体の補助金についてご説明させていただきます。

まず、今回の会議でございますが、資料1についてご説明した後、補助金の交付を受けております松戸史談会の方々がお越しくださっておりますので、委員の皆様と直接意見交換をしていただければと考えております。したがって、説明につきましては簡潔にさせていただきますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

それでは、説明を始めます。

まず、社会教育関係団体に補助金を交付するに当たりましては、市の予算となりますので、その決定につきましては、市議会の議決を経るところでございますが、社会教育法第13条に、地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合は、あらかじめ社会教育委員の会議の意見を聞かなければならないという規定がございます。本日の議題は、同規定に基づき、委員の皆様の意見を聴取するものでございます。

初めに、補助金全体のスケジュールについてご説明いたします。

資料1-1、この横版のものです。PDCAサイクル。1回目の説明でも、昨年もお示ししているものでございますが、久しぶりなので、また出させていただきました。

社会教育関係団体に交付している補助金につきましては、資料左側の2月に令和6年度事業計画案、予算案に対するヒアリングを行っております。なお、新年度の計画や予算は未確定の部分もあり、来年度の実際の申請時に変更になる部分もございますので、現時点でのものということになります。

本日、この社会教育委員会におきましては、申請前の事前評価という位置づけで、資料の2月の下段のところの下側、委員の皆様からのご意見をいただき、団体にフィードバックし、令和6年度の本申請につなげてまいりたいと考えております。

それでは、資料1-2に移ります。こちらでございます。クリップ留めの横版です。

目次に沿って、各団体のご説明をさせていただきます。

ページをめくっていただきまして、松戸市PTA連絡協議会から順番に説明します。

松戸市PTA連絡協議会は、市内の小中学校のPTAの連絡を密にし、健全な発展に貢献するほか、家庭、学校及び社会における教育の振興に協力する連合体で、特に今日の地域社会の重要課題である子どもの健全育成や安全・安心、家庭教育力の向上などの推進に関しては、学校、家庭、地域、行政をつなぐ絆として重要な役割を担っていただいている団体でございます。

令和6年度の予算といたしましては、収入は繰越金が162万5,685円、負担金が126万円、市の補助金が54万円、事業参加費が42万4,000円、県P研究大会参加費が6万円で、全体で390万9,685円でございます。

支出の部で運営費等は割愛させていただきますが、私どもの補助対象事業として計上しているものは網かけのところでございます。広報紙発行事業45万円、研修費・表彰事業46万円、音楽祭事業30万円、バレーボール大会30万円、合計いたしまして総額151万円でございます。

そのうち市の補助金の充当につきましては54万円、残りの部分については、ほかの自主財源で賄う計画ということでございます。

続きまして、2ページをご覧くださいませ。

小さな親切運動松戸支部でございます。

多年にわたって全国的に取り組まれております小さな親切運動の輪を広げ、明るい社会づくりに寄与することを目的とした団体でございます。

予算をご覧ください。

予算は、収入の部において法人関係が5万4,000円、賛助会費が47万円、市の補助金が8万円、助成金が10万円、前年度の繰越しが2万2,152円、収入の部の合計72万6,152円となっております。このうち右側、支出の部で対象の事業は、作文コンクール事業費として17万円で、うち8万円が市の補助金で充当しているものでございます。

続きまして、3ページ目をご覧ください。

今日は、ヒアリングということでお越しいただいている松戸史談会でございます。

松戸市の市制施行10周年記念事業として、昭和29年から昭和36年の間に松戸市史編さんの作業に取り組んだ際、ご協力をいただいたメンバーが中心となって立ち上げた団体でございます。今日まで、多年にわたって松戸市域の歴史、民俗などの調査研究を行うとともに、その成果を機関紙として発行するほか、研修会を開催するなど、市民の生涯学習活動の推進にご尽力いただいている団体でございます。

予算といたしましては、収入は繰越金が32万5,207円、会費収入14万円、市の補助金が8万円、報奨金が5万円、事業収入7万円、寄附金収入2万円、計68万5,207円でございます。支出の事業費といたしましては、歴史散歩・勉強会事業14万円、史談発行事業35万円、文化祭執行事業10万5,000円の合計59万5,000円で、うち8万円が市の補助金の充当となっております。

次のページでございます。4ページ目。

松戸市音楽協会でございます。

松戸市域の音楽、文化を振興し、まちに潤いをもたらすことを目的として、合唱、声楽、オーケストラ、吹奏楽、和太鼓など、音楽分野ごとに連盟を組織した連合体で、毎年様々な分野の音楽祭やコンサートを開催し、音楽を通じた市民の生涯学習活動の普及等実践にご尽力をいただいている団体でございます。

予算といたしましては、収入の部、前年度繰越金が29万7,353円、事業収入が145万1,000

円、参加者負担金が117万円、主催団体負担金279万4,000円、会費収入57万円、雑収入10円、市補助金265万円、助成金収入30万円、合計923万2,363円でございます。支出につきましては、右側の事業費、網かけのところが補助の対象の事業でございます。主催事業費618万5,000円、連盟事業費244万2,000円を合計して862万7,000円で、うち265万円が市の補助金の充当となっております。

続きまして、5枚目でございます。

松戸市少年少女発明クラブでございます。

子どもたちに科学的な興味関心を追求できる場を提供し、工作活動を通じて完成する喜びや科学的発想に基づく創造性豊かな人間形成の支援を行う団体でございます。

令和5年度申請内容は、収入の部として発明協会助成金が27万円、市の補助金が50万円、会費が40万円、寄附金240万円、雑収入5円の合計357万5円。右側支出の網かけの事業費が170万3,505円でございます。また、別枠で修繕積立金として43万4,160円の積立てを予定しております。

続きまして、6ページ目をご覧ください。最後でございます。

前回の会議でヒアリングをさせていただきました松戸市スカウト連絡協議会でございます。

野外活動を中心としたプログラムで、人格、市民性、リーダーシップなどを習得させることで、青少年の健全育成に取り組む市内のボーイスカウト団、ガールスカウト団の友好を図り、その運動の発展に協力するとともに、市内の社会奉仕団体の活動に協力する連合会で、自然体験学級実施やこどもまつり等、社会奉仕活動にご尽力いただいている団体でございます。

令和6年度予算は、前年度繰越金2万7,142円、会費6万円、市補助金76万円、合計84万7,142円、支出の網かけの事業費につきましては、自然体験学級事業10万円、各団体助成事業が66万円、合計76万円でございます。

私からの説明は以上でございます。

続いて、本日は松戸史談会の方にお越しいただいておりますので、委員の皆様の前でプレゼン及び相互の意見交換をさせていただきたいと思っております。

長江委員長 ご説明ありがとうございました。

それでは、団体の方にお待ちいただいているようなので、入室をしていただきますよう、よろしくお願いします。

(団体代表入室)

長江委員長 本日は足元の悪い中、おいでいただきましてありがとうございます。

すばらしい団体の活動だと思いますので、活動につきましての報告をよろしく願いいたします。

松戸史談会 松戸史談会の古木と申します。よろしく願いいたします。

簡単に私どもの活動内容をご紹介しますと思います。

そもそも、松戸市が市制10周年記念事業として『松戸市史』の編纂を行っています。そのとき市役所の職員の松下邦夫先生が中心となられ、ただ市史を編纂することで終わりにするのではなく、この取組を継続的に未来に残していく、あるいはそれを市民と共有していく会を立ち上げられました。そういうことで、昭和35年6月に松戸史談会が誕生しました。それから64年間活動を続けてまいりました。ただ、趣味で勉強するだけじゃなく、その勉強したことを市民のみなさんに広めに共有し、市民のみなさんとともに、松戸の歴史、あるいは日本の歴史、世界の歴史を学んでいこうという団体です。

お手元の資料2をご覧くださいければと思います。ほぼ毎月、事業を展開しております。令和5年度も同様に展開してまいりました。私どもは、歴史散歩と呼んでいますが、松戸市内、あるいは近隣の東京や市川、流山などの史跡を巡って、その史跡の意味や歴史などを皆さんにご紹介しながら散策するという会を年間6回やっております。

ここにありますが、本年3月31日の会では、弘法寺の伏姫桜、樹齢400年の大きくきれいな桜ですが、お花見を目的に矢切駅から市川の国府台のほうを散策いたします。途中で、栗山の配水塔ですとか、古墳群などがあります。例えば、總寧寺というお寺には、嘗て阿片王と呼ばれていた里見甫という方のお墓もあります。そういうものを紹介しながら、弘法寺まで出かけて花見をしようという会になります。

それから、4月には総会を行います。私どものいろいろな予算案ですとか、事業計画案を検討いただく会になります。

5月は、歴史散歩を行います。錦糸町から、亀戸天神など亀戸の史跡をめぐろうと計画しています。

6月には、松戸市立博物館の学芸員の方と一緒に、松戸市のパートナー講座というシステムを利用して、松戸の江戸時代の村の様子を学ぼうという勉強会を準備しております。

それから7月には、公開勉強会を行います。お手元にお配りしました『松戸史談』、毎年発行していますが、その記事の内容を紹介する勉強会を計画しています。去年私が書きました『二人の大蔵大臣 金解禁をめぐって』というタイトルで、松戸市史にも登場する、野田

の大争議や、松戸市内の東葛銀行の倒産など、昭和初期の様子をお話します。特に、なぜそのような事象が起こったのかを考えてみたいと思っています。

それから9月には、これは秋のお花見として、古民家・旧齋藤邸から、東松戸のゆいの花公園をめぐる企画で歴史散歩を計画しています。

10月13日には、水元地域をめぐるということで、江戸川についてのお話をさせていただこうかと思っています。

11月3日は、毎年参加している松戸市の文化祭です。千葉県立中央博物館の学芸員の榎美香先生にご講演をお願いしています。利根川や江戸川を使って運ばれた「干鰯」、江戸時代の肥料についての講演を考えています。去年は館山博物館の宮坂新先生をお招きして、房総半島で「干鰯」がどのように作られ、どのように運ばれたのかをご講演いただきました。今年は、その先、関宿などに集められた「干鰯」が、どこへ運ばれたのか、どこで、どのように使われ、どのような産品や産業を産み出したのかということ、みなさんと勉強したいと思っています。

それから12月、これも毎年行っていますが、市内のお寺を訪ねます。去年は、中金杉にあります曹洞宗の広徳寺で、みなさんと一緒に座禅を組ませていただきました。本年は、北小金の真言宗の大勝院というお寺で、真言宗という宗教のお話や、寺仏や境内をご案内いただく企画を考えています。

それから1月、年が明けますと毎年3日に、松戸史跡七福神巡りをやっています。これは午前中から、1日かけて約10キロを歩きます。みなさんよくご存じで、松戸の年中行事のひとつかと思います。嘗て多いときには200人もの参加者がありました。最近、コロナ禍以降は減少傾向で、60人ぐらいの参加に落ち着いていますが、できればもっと参加していただきたいと思っています。

それから2月、これも公開勉強会として、毎年映画鑑賞会をやるようになりました。1回目の映画鑑賞会は、「競輪上人行状記」という日活の映画を上映しました。これは嘗ての完成当時の常盤平団地がロケ地になっています。と同時に競輪の話で、松戸競輪場も見事に記録されています。主演は小沢昭一さんです。非常に面白い映画でした。今年は「野菊の如き君なりき」、原作は伊藤佐千夫「野菊の墓」で、矢切のお話ですけど、ロケ地は長野県で、川が急流なのがちょっと残念でした。

来年は、川島雄三監督の「幕末太陽傳」を計画しています。これは品川宿の話で、松戸宿とは規模から言えば、圧倒的に品川宿が大きいわけですが、宿場の雰囲気というのはどんな

ものだったのかということ、みなさんと勉強できればと考えています。

3月には、上野寛永寺をめぐるということで、上野方面へ出かけようと思っています。

これが一応令和6年度の私どもの事業計画です。これとほぼ同様のことを令和5年度も実績として行ってきました。

また、皆さんのお手元にあります『松戸史談』という会誌を、毎年300部出版しています。会員のみなさんにお配りし、各図書館や博物館等にも寄贈し、一般にも販売しています。お手元にあるのは63号ですが、今年は64号を出版したいと考えております。これらが私どもの主な事業となります。

これが資料2までのお話ですが、その後に、横位置の資料になっておりますが、今年から新しい事業として「出前講座」ということができないだろうかと考えています。いつも来てくれ来てくれだけでなく、松戸史談会が出かけて講座を開設するということをやってみたいという提案をさせていただければと思います添付させていただきました。

これは、今まで「松戸史談」で取り上げたいろんな話題、例えば先ほども出てきました『二人の大蔵大臣』の話ですとか、『西と東 ウクライナとシベリア』の話を考えています。ウクライナと松戸？というふうに思われるかもしれませんが、ロシア革命後にウクライナが独立しようとし、同時にそのとき、日本はシベリアに出兵しています。そのシベリア出兵で、松戸出身の兵士が1名だけ亡くなっています。その方のお墓が松戸にあります。それらの事象についてお話ししようかと考えています。実は、我々の生活の身近なところにもウクライナの話もあるというようなことを皆さんと考えてみたいと思います。

『オリンピックがやってくる 松戸競馬場顛末記』は、みなさん松戸の相模台に競馬場があったことはご存じだと思うのですが、その競馬場はどうなったんでしょう。松戸競馬場は、中山に移転しました。ところが、中山に移転したところで内輪揉めによって、行徳に移転しますが、関東大震災の津波で潰れてしまいます。それでまた中山に戻ってきます。松戸原木線の反対側になります。そして、この競馬場で何が起こったかというと、昭和15年（1940）幻の東京オリンピックの馬術会場になろうとしたことがありました。そういう話をさせていただきたいと考えています。

『吾妻婦人音楽連中の災厄』では、オッペケペー節で有名な川上音二郎一座の音声が残っています。この音声は日本人の声の最初の録音です。これは明治33年（1900）パリ万博で録音されたものです。誰が録音したのか。どうやって録音したのか。そういう話をさせていただきたいと考えています。

『プリンスとサーカス 二人のパリ万博』というのは、幕末、徳川昭武公がパリに留学しました。彼は、南回りでインド洋を渡り、スエズ運河がないので、カイロから汽車でもって地中海に入って、パリに至ります。それとは逆に太平洋を回って、同様にパナマ運河がありませんから、パナマ溪谷を汽車で越えて大西洋にでて、ヨーロッパに入った高野廣八という興行主を登場させます。濱碇一座という曲芸一座です。この一座がパリ万博で、昭武公と会っています。このとき渋沢栄一がお花代ということで現在の価値で400万円かのお金を一座に渡しています。地球を逆に回って、プリンスの昭武と、サーカスの高野廣八が会うという、お話をさせていただこうと思います。

それから最後は、『松戸宿と河岸』のお話です。江戸時代の絵図ですとか、現在の街の写真がたくさんありますので、それらを組み合わせてお話ししたいと思います。

判りやすいビジュアル資料や、動画、音源を、スライドショーに編集し、それらを活用した出前講座をやってみたいと考えています。みなさん、もしご協力いただけるのであれば、スクリーンもプロジェクターもパソコンも担いでまいりますので、是非講座を開設させていただければと思います。

ちょっと長くなりましたが、このような活動している団体です。

長江委員長 ご説明ありがとうございます。

あとご一緒にいらっしゃった方々も、何か補足というか、ここをちょっと話しておきたいということがありましたら、いかがですか。

(「特にありません」の声あり)

長江委員長 大丈夫ですか。

そうしましたら、委員の皆様方のほうから何かご意見とか、あるいはご質問とかありましたら、よろしくお願いします。

いかがでしょうか。坂委員。

坂委員 子ども会育成会連絡協議会の坂と申します。よろしくお願いします。

大変いろいろな事業をおやりになっていて、特に今ちょっと私が思ったのは、令和6年度の中の真ん中に、夏休みこどもワークショップ・出前講座をご検討というようなことが書いてあります。

実は子ども会というのは、1年生から6年生までの小学校がほとんどなんですが、中学生、高校生もそのまま残ってお手伝いをしてくれるジュニアリーダーという制度があるんですね。その子たちの認定講座みたいなものをいつも毎年キャンプに行った子を中心に、子ども会で

キャンプをやっていますので、その子どもたちを中心に、7月、8月の夏休みを利用して行って、9月の第1土曜日がほとんどなんですが、研修会を行っていて、ジュニアリーダーの資格を取るような指導といたしますか、これはちょっと話が飛んで、県子連というのがあって、そこから指導要綱があって、松戸市の歴史・文化・芸術等について講習しなさいという項目があるんです。いつも子ども会のメンバーで、これどうやって説明しようとか、子どもたちに向けてどうやってやろうかと迷って、誰も説明する人がいないので、毎年私が一生懸命勉強して、今年は戸定館だとか、今年はここだとかというのをやらせていただいたり、ただ一番苦労しているのは、写真や何かの当時の記録を集めるのが非常に大変で、相手がやっぱりわんぱくの子もいれば、いろんな子がいるので、30分、40分の中で松戸市の歴史だとか文化、特に歴史の話のほう子どもたちって意外と飛びつくんですね。なので、そういったものが今後どうしたらいいかなというところに今ちょっとこういうお話を頂戴したので、先ほど1時間から2時間と。子どもはそんなに耐えられないので、手短に。ただ松戸市の歴史というのをうまくお伝え願えたら、それはそれで有意義な時間かなと思ひまして、子ども会としてもここら辺の夏休みとか、こういうタイミングをちょっと検討したいなとか、逆にご検討いただければなというのが1点。

それから、実はもう一つありまして、松戸市の子ども会としましては、非常にスポーツ活動が盛んでして、その子どもたちというのが、チーム数でいくとソフトボールが30、ドッジボールが20、平均のチーム数が20人ぐらいですから、約1,000人弱の子どもたちが一生懸命活躍しているんですが、実は松戸市の子ども会って3,000人弱いるので、それ以外の子どもというのは、ドッジボールもソフトボールもやっていなくて、文化系の子なんです。文化系という言い方はおかしいですね。スポーツに対して文化系という意味です。この子たちに対して、今いろんなトライアル事業といたしますか、活動を支援することを今、実は計画してやっております。ぜひともまたこういうお話を頂戴するのはいいのかなと。文化的なそういうものをですね。

ただ先ほども言ったように、あまり長い時間やると子どもたちが飽きちゃうので、そこら辺をどういうふうにつなげながら、結構興味のある子は手を挙げて、何とか、どうしてみたいなのを聞いてくるので、そういったものをやっていきたいなと思っています。

ですから、先ほどのジュニアリーダーの研修会とは別に、全く一つの出前講座として独立して、あるいはイベントや何かのところで、あるブースをつくって、そういうのをご紹介いただくとか、これに関してはちょっと形態はまた考えたいとは思ひますが、ぜひとも松戸の

歴史、写真だとか、先ほどご説明いただいたように、今の子どもたちに伝えたいというふうにかねがね思っておりましてので、ぜひとも出前講座も含めて、ちょっとお話をできれば、ご検討いただければというふうに思っております。

松戸史談会 ちょっと答えになるかどうか分かりませんが、夏休み子どもワークショップと書いてありますが、最初にイメージしたのは、スタンプラリーをやりたいと思いました。旧水戸街道沿いの松戸宿の通りにお寺や、古い商店などがたくさん残っています。この場所でスタンプラリーをやって、上がりで何かお菓子でも配るような、そういうことをイメージしました。コロナ禍前には松戸市教育委員会でもスタンプラリーをやられていたので、その中で一緒にコラボができないかなということで、子どもワークショップということを書きました。

それともうひとつは、今お話しになっていたように、夏休みの宿題の面倒を見るような感じのイベントです。子どもたちに対して、答えを与えるのではなく、どうやって調べるのか、どうやって発表するのか、そういう方法論を学ぶイベントです。小学1年生もいれば、3年生もいる、あるいは中学生もいるというところで、共通の答えというのは難しいと思います。であれば、1年生にはこういうやり方でこういう発表にしたらどうだろうとか、中学生になればパワーポイントも使えるとか、学年によって課題も方法もが違うと思います。だとしたら、例えば1日どこかの図書館を借りるなり、こういう会議室を借りて、いろいろな学年の子どもたちがやってきて、ちょっと宿題の最後の仕上げを手伝ってあげる、そういう感じのものができると考えています。また、今おっしゃっていたように、松戸のちょっとした歴史のテーマを決めて、お教えするということも可能だと思います。それはいかようにも料理ができると思いますので、ご相談いただければ、ぜひ参加させていただきたいと思います。

長江委員長 ありがとうございます。つながるということですね。

大成委員どうぞ。

大成委員 聖徳大学の大成と申します。

本当にすごくどのお話も面白いなと思って聞いていたんですけども、子どもさんにも、それからふだんは割と年配の方にですかね。

松戸史談会 そうなんです。それが苦しいんです。

大成委員 若者というのも、大学生とか、若者にも聞かせたいなというのは、ちょっと聞いていて思ったんですね。

松戸史談会 そうしたいんです。

大成委員 例えばこれ今、競馬場ってあれは松戸中央公園のところですよ。

松戸史談会 そうです。

大成委員 そうすると、目の前の話なんですよ。そういう話を何かしていただけたら、全然地域への目の向け方が違うんじゃないかなと思って、例えばそういうのでも、ちょっと授業とかでもお話ししたりとか。

松戸史談会 行きます。

大成委員 可能なんですか。お金というのはどうなっているんですか。

松戸史談会 勿論タダです。

大成委員 無料なんですか。

松戸史談会 はい。ボランティアです。

大成委員 ボランティアですか。すごいですね。

あと常盤平団地も我々はちょっとアクションを起こしたいなと思って考えているんですけども、そういったところこそうちの大学はURと連携したりというのがあって、そういう団地の背景とか、さっきの映画のお話も、こんな映画があるんだっていうのを初めて知りました。

松戸史談会 映画そのものも面白いんです。

大成委員 なんかちょっとお話をしていただけると、またいいんじゃないかなと。いろんな方たちと交流できると面白いかなと思いますし、地域にやっぱりもっと目を向けられる機会が大学生にもあるといいかなというふうに。

松戸史談会 ぜひお願いします。

大成委員 もう一つ、これインターネットとかで何か紹介とかというのは何かしていますか。

松戸史談会 独自のホームページと、まつど「まなびいネット」で、毎月2～3回更新しています。前は、フェイスブックもやっていましたが、アカウントを凍結されたので、アカウントを再取得して、フェイスブック、インスタグラムもやりたいと思っています。

大成委員 インスタもやっているんですか。

松戸史談会 これからです。写真もたくさんあるので是非やっていきたいと思っています。

大成委員 インスタなら大学生も見ますよ。

松戸史談会 はい。そう思います。同じ話で恐縮ですけど、ちょうどこの相模台には千葉地方裁判所松戸支部があります。その調停委員の方々に出席講座の開設の打診をしたりしています。私たちの一番の問題は、会員の高齢化と、会員の減少にあります。会員の減少は

非常に大きな問題でして、若い方との接点を持ちたいというのが、私たちの望みです。ですから、是非そういう機会があればありがたいと思います。

大成委員 アーカイブである程度残っていると、若者はそれを手がかりに、また何かやってみようかなと思えるんじゃないかなと思うんですけれども。

松戸史談会 そうです。そういう機会を私たちも作っていきたいですし、ご一緒にやり取りさせていただければ、そういうこともできるのではないかと思います。

大成委員 ありがとうございます。

松戸史談会 よろしく願いいたします。

長江委員長 他にいかがですか。大野委員。

大野委員 大野と申します。よろしくお願いします。

松戸史談会 よろしく願いします。

大野委員 64年の歴史ということで、大変長くやられてすばらしいなと思いました。私個人で言うと、この日課にやられている史跡巡り、これいつもお昼頃になると、八ヶ崎の辺りを回っていらっしゃって……

松戸史談会 そうです、そうです。

大野委員 武蔵野線をすぐ超えたところに史跡があって、皆さんがこうやって旗を持って、大体五、六十人の方が熱心に勉強されているのをいつも見ているので、いろいろ活動されているんだなとすごく個人的に興味があります。

先ほど、高齢化で減っているという話がありましたけれども、会員の方々が。例えば募集なんかは、どんな形で募集されているんですか。

松戸史談会 いや、これが募集といっても、具体的な募集ができていません。イベントに参加していただいた方に入会のご案内をお渡しするとか、ホームページや、会誌『松戸史談』でも会員募集はしていますがなかなか難しいと思っています。

入会されても、お仕事の関係だとか、ご家族の関係で長続きしない方もいらっしゃいます。若返りは課題です。こうしてお話している私が若手ですから。あるいは一番小僧とも言われていますから、推して知るべしで、みなさん高齢の方ばかりです。そうしますと、だんだん歩けなくなり行事に参加されなくなる。プレゼンテーションをやろうといっても、機材を使いこなせないの、どうしても紙を読んでしまう。文字だけの情報ですとなかなか理解しづらい点もあると思います。そういう点においても、どこかで若い方々との接点があるとうれしいです。

大野委員 ちなみに教員とか、そういう方はいらっしゃるんですか。

松戸史談会 私も以前教員でした。

大野委員 何人かいらっしゃる。

松戸史談会 そうですね。何人かはいます。

大野委員 最初に、活動を市民に広めるというようなことで、まさに社会教育だし、すばらしいなと思ったんですけども、来年度からですか、出前講座が始まるということで、この対象をどのような方を対象にされているのかなというのがすごく気になりまして、なぜかといいますと、いろいろ先ほど大成委員とか、坂委員からも話がありましたけれども、我々だったら、小中学生対象とかそういうのを期待するところなんですけれども、この内容を見てみると、年齢的にはちょっと高いなと。

松戸史談会 はい。高いと思います。『松戸宿と河岸』というあたりだと、小さな子どもたちでも理解できるような内容にはできると思いますが、ちょっと上のほうにいくと、なかなか難しい話になります。上のほうというか、1、2、3、4は、なかなか内容的には難しいと思います。例えば、逆に、こういう時、こういう所で、こういう話ができないかと、設定を与えていただければ、それにお応えするプログラムを用意することは、全くやぶさかではありません。

例えば、どこの小学校であるとか、どこの中学校であるとか、その近所の話をしてほしいという設定をいただければ、私たちが材料を用意することも可能です。

大野委員 今、学校教育でも社会科を中心に地域学習というのが盛んに言われていますので、地域のことをやっぱり子どもたちが知ることによって、知識だけじゃなくて、地元意識だったりいろんなところを醸成しているんですけども、ただなかなかそれを語れる教員がいないというところがすごく問題になっていて、小学校の場合だと社会だけ教えているわけじゃないので、そうするとやっぱりそこにかかる時間というのが難しいですし、こういう先ほど博物館ともすごく連携されているということで、学校も博学連携という言葉あるように、最近はちょっと博物館とも連携が図れるようになってきた中で、ぜひ連携が取れれば、子ども向けに直接出前授業というのももちろん期待したいところではありますし、それから教職員向けに知識をつけてもらうというところでも大変期待したいなというところがありますね。

松戸史談会 かつて小学校の出前授業というのをやっていました。小学3年生あたりを対象にして1時間ぐらいの、お話をしたということがありますが、逆に無理やり1時間もらっても

申し訳ないというか、繋がっていかないのです。聞いて終わりのような。そうではなく、何かもっと繋げていけるような仕掛けみたいなものを考えられると面白いのかなというふうに思います。それが何なのか答えは分かりません。以前の出前授業は、学校へ行って、校長室でお茶を飲んで、お菓子を食べて、さあ、先生がたお願いします、と小1時間話して、じゃ、さようなら、ありがとうと帰ってくるだけでしたので、これではちょっともったいないなと思いました。もうちょっと何かを作っていくというか、何かができないかなと。

大野委員 やっぱ話だけだと、子どもってずっと座っているの大変だから、やっぱりフィールドワークをしながら、出ながらいろいろ説明していただくと、学校から出るということにはすごい喜びとわくわくを感じますし、得るものも大きいと思うので、そんなことももしお願いできればなと思います。

松戸史談会 そうですね。そういう取組みも史跡、歴史散歩と呼んでいますけれども、学校対象の歴史散歩もやったこともありました。最近はやっとやっています。もし機会があれば小学校なり中学校なりの近所で、そんなに遠くまで行けませんから、1～2時間程度で回るようなコースも考えることはできなくはないと思います。

大成委員 私がこれを見て、夏休みこどもワークショップと聞いたときに、何か作るのかと思った。

松戸史談会 それもあります。

大成委員 回るんじゃないなくても、何か1つのところで、体験をしてみるというような。

松戸史談会 体験の材料として、例えば国土地理院の地図があります。年代ごとに明治から大正、昭和、そして現在まであります。1枚500円です。その地図を重ねていくと、街の移り変わりが手に取るように判ります。ここは何で変わったのか、ここは何で変わらなかったのかということをやっていく。単純なことですけれども、そういう授業もできますし、アイデアは何とでも出せます。

長江委員長 ありがとうございます。

小林委員、何かございますか。

小林委員 例えば図書館とか、そういうところでネタになるような本、多分この図書館に入っていますよね。

松戸史談会 入っていますね。

小林委員 だから一般の人は、こういう目新しい本とか、そういうのに行くでしょうけれども、せっかくあるその図書館にあるいろんな資産を皆さん方みたいなよく深いところまで

分かる方が、解説的なことで、図書館とか、あるいは博物館とか、そういうところでのフィールドワークというか、というのはちょっと面白いかなと思いつつながら。

松戸史談会 できると思います。図書館も今、松戸市立図書館もそうですし、県立西部図書館もそうですし、非常に便利になっています。国立国会図書館もデジタルアーカイブを充実しました。『松戸市史』に至っては、全部無料でダウンロードできます。国立博物館もそうですし、アーカイブになっていて、これもダウンロードできて、いつでも私たちの手元に取り出すことができます。

こういうものを生かしていくこと、例えば絵図です。松戸宿をきれいに描いてある絵図があります。この絵図を渡して、見つけたお寺に丸をつけてくるだけでも、かなり面白いことができる気がします。ぜひ一緒にやらせていただければと思います。

長江委員長 ありがとうございます。

阿部委員、何かございますか。

阿部委員 阿部と申します。本当に先ほどの概要を聞いただけですごく引き込まれる内容だったので、お話を聞いていると、今、団体の中で若手は多分、古木さんが非常に重要な役割なんだなと思って聞いていました。

もともと子どもに関わる学びの場とか居場所というのをやってきた立場からちょっと思ったのは、さっき皆さんがおっしゃっていただいたように、本当に歴史を残すこと自体に価値があるとは言いつつ、それをどう伝えていくのかということも同じように必要だと思っていて、先ほどの学校現場であったりとか、地域というところで、ぜひ皆さんの培ってきたものを生かしていただければなと思ったんです。

そのために必要なものとして、もう既にこの場でマッチングというか、その可能性が見えたなと思うんですけれども、せっかく社会教育の中で、先ほど社会教育課の皆さんも含めて関わられているので、やっぱりつなげていくためには、皆さんだけじゃやっぱり難しいところがあるのかなと思ったんです。それは学校現場もそうですし、ここで個別につながりが今できたということはあると思うんですけれども、じゃ、私であれば、市民活動というところでネットワークでやっているんですけれども、やっぱり子どもに関わる活動をしている人たちがたくさん地域にはあつたりするので、松戸の歴史を伝えていくということは、単純に知識を伝えていくだけじゃなくて、やっぱりアイデンティティーとして、松戸に対しての地域愛だったり、自分たち自身のアイデンティティーの醸成ということにつながると思うので、全然違う団体の活動している団体、例えばこども食堂であったりとか、社会教育的に子ども

たちが体験学習をしているような団体というのがたくさんあったりするんですけども、そことコラボレーションしていくということがすごい大事なのかなと思ったので、社会科の皆さんからつないでいくというのもそうですし、我々は市民活動としてつないでいくということが一緒にできたらなと思ったというのが一つです。

もう1点は、そのときにやっぱり皆さんが培われてきたものが深いがゆえに、それをどう伝えるのかという、先ほど皆さんからお話があったようなやり方というところもあると思いますし、コーディネートといいますか、いかに引き込んでいくかというところにより必要になってくるのかなと。それは子どもだけでなく若手、年代は若者なのか、30代、40代なのか、50代、60代なのかによって大分違うとは思いますが、皆さんがやってきたことが深いがゆえに、ちょっと戻るといえるのか、何でしょう、ギャップがどうしても生まれちゃっていると思うんですよね。皆さんにとっては当たり前の情報というのが、やっぱり知らない方からすると、そこに溝が深いがゆえに出てしまうときに、どうその溝を埋めるかというところが、それがどういうふうに、先ほどお話しいただいた何か工夫が必要だとおっしゃられたと思うんです、授業の中で。1時間話すだけじゃなくてという、そこをどう埋められるのかなと思いながら聞いていたんです。そこがあるだけで、今までやってきたものが活かされていくんだなと思ったんです。なので、例えばちょっと具体の話を使うと、メンバーを皆さん常に募集されているという話があったと思うんですけども、今このラインナップで多分募集をされて集まられていると思うんですけども、やっぱり階段をつくっていくといいますか、皆さんのレベルにやっぱり合わせていくものもあれば、やっぱり初心者じゃないですけども、入られた方にとって、どう入ってきてもらうのかみたいなところも工夫が必要になってくるのかなとちょっと思ったりはしました。

ちょっとすごくざっとしか言えないんですけども、私どもまつど市民活動サポートセンターという形で、コーディネートだったりとか、若手、新しい担い手をどう集めるのかというところでは、何かお力になれるところがもしかしたらあるかもしれないなと思ったので、ぜひ引き続き、以前もちょっとお話しさせていただいたことがあったんですけども、何か関わっていただけたらと思いました。

松戸史談会 そう仰っていただけることはありがたいと思いますが、それほど私たちも深くはなくて、浅く広くだとは思いますが。

本年3月31日の歴史散歩は、漫画からネタを拾っています。『満州アヘンスクワッド』という最近の漫画です。人気があるようですけれども、14巻で終わりました。これが入り口に

なっています。当日のパワーポイントをお見せしますが、これが阿片王です。この方のお墓を見学にいきます。屋外で文字を読んでいてもいい、このようにスライドショーにしてお見せして、これを基にしてお話をしていく。河本大作の張作霖の爆殺事件や、石原莞爾や板垣征四郎が満州事変をと、こういうスライドショーにして説明します。漫画をネタもとにしたり、いろんな入り口をもっと作っていきたいと思っています。漫画だったり、ゲームだったり、そういうところで若い人たちの興味や関心を引き込めないだろうかということは常々考えてはいます。ただ漫画も読まなきゃいけない、映画も見なきゃいけない、なかなか大変ではありますが、そういう作業はやぶさかではありません。

阿部委員 本当にそれができる皆さんだと思ったので、非常にそこを強くやっていただけたらと思います。

それから、もう1点、ちょっとお金周りのことで少し質問させていただけたらと思ったんですけども、2点あって、結構収支を見ると、前期繰越金が結構半分近くの予算に、前期の繰越金で成り立っている形に見えるんですけども、次年度以降、この収支というところを見ると、次年度残るお金がないという、収支だけ見るとですけども、なので、次年度以降どういう計画なのかなと思ったのが1点。残してほしいからがゆえにという単なる心配があったということなんですけれども。

松戸史談会 繰越金が多いというのが、実はこれは理由から言いますと、かつて土屋財団から助成金をいただきまして、これを特別会計にしていた時期がありました。前の会長がお辞めになったときに、繰越金は大きくなりましたが全体を1本化しました。

それから、これは今年に限ってですけども、会誌を発行していますが、お願いしていた印刷屋さんが廃業され、ちょっと今年は費用がかかるだろうと、厳しい予算を組んでいます。

阿部委員 例年より上がっているということですね、これについては。

松戸史談会 倍近く紙代も含め全部もろもろ。

阿部委員 値段が上がっていますよね。

松戸史談会 はい。以前は、出版に40～50万かかっていました。それで、編集作業は紙でやり取りをやめて、データでのやり取りにし、入稿とか校正をデータでやるように変えて費用を圧縮してきました。この関係性が白紙になってしまい、もとの紙のやり取りに戻る可能性もあるのかも知れない、困ったなというのが実際のところです。

阿部委員 なるほど。ちょっと追加で併せて聞こうと思ったんですけども、印刷費が結構大きかったんで、この冊数でページ数ぐらいの同じ同規模というイメージですね。

松戸史談会 そうです。64ページを基本に考えています。

阿部委員 ということですよね。基本的にはこれは印刷会社さんの費用。

松戸史談会 費用は大きいと思います。

阿部委員 ちょっと今、やっぱり多分ご存じだと思いつつ、多分それ印刷屋さんを挟まずに、自分たちで直接印刷会社、ネット経由して発注するだけで恐らく10分の1ぐらいになる。

松戸史談会 そうなんです。そうすると、私がインデザインをしなきゃいけなくなります。

阿部委員 そういうことか。デザインも依頼されていたということなんですね。

松戸史談会 そうです、そうです。

これ編集もやってインデザインもやると、かなり私が大変だなと。

阿部委員 でも、古木さんじゃなく、それを別の方をお願いするというやり方もあるなと思ったので、なんかそのあたりノウハウとかはあるかなと思ったので。

松戸史談会 それを例えば学生さんとか……

阿部委員 そうですよ。

松戸史談会 インデザインが使えますよ、一緒に編集作業やってもらえたりするような関係性をつくりたいと思います。

阿部委員 そうですよ。

松戸史談会 ただで使おうなんてことは考えていませんが、ご一緒に編集だとか。

阿部委員 他の事例として千葉商科大さんはちょっと松戸じゃないですけども、デザインを専攻されている学部もあったりするので、このときは映像関係でしたけれども、連携させていただいたこともあったりしたんですけども、学生さんに限らずですけども、多分節約できるやり方はあると思ったので、ご存じだとは思いつつも、それも含めて持続可能性という点でもし何かお力になれることがあればと思いました。

松戸史談会 ぜひぜひ教えていただきたいと思います。おっしゃるとおりインデザインまでやってPDFで入稿すれば印刷費は安く済みますが、そこまでの作業、原稿を集めたり、手書きで入稿される方の入力作業などがあります。しかも皆さん達筆なもので、私もなかなか読めなかったりするもので。

阿部委員 よく分かりました。

坂委員 ちなみにこれは今市内の書店にて販売されてるとのことでしたが、これはお幾らぐらいでお売りになっているんですか。

松戸史談会 書店には800円。店頭では1,000円です。

坂委員 800円から1,000円。

松戸史談会 はい。

坂委員 今、本屋さんもなかなかなくなってきている。

松戸史談会 なくなっています。どんどんなくなりました。

昨年も常盤平の学友堂さんも、八柱のリコー書店も閉店されました。

坂委員 松戸かるたを唯一販売していたリコー書店さんが閉めてしまって、松戸かるたがまたどうなるのかなと。今、子ども会でそれなりの数を確保したんですけれども、あれも実は非常に歴史があって、そこに子どもたちが当時の、あれは市制50周年で作ったかるたですから、あれを読みながら、子と清水がこうとか、あれがこうとかっていうのが松戸の勉強にもなるので、実はそれも毎年1月の中旬に子ども会として松戸かるた大会というのを、だんだん人が増えてきて、今年は阿部さんのところのサポセンでやらせていただいて、120人ぐらい子どもたちが来てやって、昔は50人もいなかったですね。今、かるた協会さんもちょうとやっぱりご高齢ということで、子ども会でやってねという話になって、ですから先ほど言った文化云々の話、子ども会でやっているものの中では、松戸かるたをずっと継続してやらせていただいて、たしか30回目ぐらいになるんですね、回数的には。ですから、それも継続しながら、そういうことでちょっとやはり歴史や何か子どもたちにそういうことで興味を持ってもらうと。

ちょっと話は変わって別になるんですけれども、子どもたちの食いつきという点でいくと、先ほど地域のお話をした。自分の学校の話をするときはものすごいんですよね。例えば何々小学校の、要するに子ども会としては、そのエリアに学校に何個かの子ども会があって、それでその小学校の話をする、これうちの近所だと。ですから、何ですかね、スイッチが入ると、子どもたちって途端に活性化するというのをよく見ているので、出前や何かの話も今後ちょっとそういうのでご相談させていただきながら、松戸市の小学校も古いので150年、130年ぐらいですよ。ですから、そういったところもあり、新しい小学校もあり、松戸の歴史と一緒に子どもたちがいつの間にかそういうお話を頂戴すると、松戸市のここら辺の地域だけは僕は得意だよ、私は知っているよみたいになるのも一つかなというふうに思っている、先ほどのお話の出前講座も含めて、いろいろとちょっとまたお話を頂戴したいなと思います。

松戸史談会 ぜひお願いします。

長江委員長 他にございますか。安達さんどうぞ。

安達委員 北小金でこども食堂をやっております安達と申します。

すごく本当に先ほど聞いたお話で私も勉強になりましたが、この話をやっぱり世代が代わってもずっと伝えていけるといいなというふうに、すごくいい活動をされているなというふうに思いました。

私たち、こども食堂ではあるんですけども、食事をするだけではなくて、いろんな団体さんと連携をして、いろんなことを子どもたちに学びとしてやったりとか、あとイベントをやったりとかしてきたんですけども、過去にも子どもが歴史を知りたいということで、近所の歴史に詳しいおじさんに来てもらって、子どもたちを集めて小金の歴史の話をしてもらったりとか、そういうことをやってきたんです。本当にさっきお話でありましたように、この出前講座をぜひこども食堂とかに来ていただいて、子どもたちにお話をしてもらったりすると、すごくいいなというふうに思いました。

あと学校にもよると思うんですけども、中学校とかで、今、中学校お助け隊みたいな感じで、何でしょう、積極的に子どもたちがこういう活動をしたい、ボランティア活動をしたいみたいなというのを募集している学校があったり、あと世代間交流とかで中学生じゃない世代の団体さんの学校に行って、その団体さんがやっている活動を子どもたちがやるみたいなことをやっているんです。なので、出前で講座を受けるというよりは、学校に来ていただいて、それを子どもたちが逆に今回で言えば、この歴史を子どもが発信するという体験とか経験をしていくと、もっともっと子どもに楽しさが実感として湧いてくるのかなというふうに思いました。

私は、どちらかというと子どもがメインですけども、年配の方で外になかなか行けない方にとっては、出前講座というのはすごくいいと思うので、ぜひこれからも活動を頑張っていただけるとうれしいなというふうに思いました。

松戸史談会 はい。頑張ります。会員をとにかく増やさないといけません。先ほどから出ていますように、大学生とか、もっと若い人たちと一緒にやっていく機会をとにかく増やしたいというのが私たちの大きな願いです。このままですと、ギリ貧で、おっしゃるように時間の問題になってしまいますので、それをどうにか回避したい。どういうふうに広げていくかということを、新しく取り組んでいかないといけないと思っています。ぜひ活かしていただければと思います、どうぞよろしくお願いいたします。

長江委員長 いかがですか。奈賀委員。

奈賀委員 今これだけの時間で、みんな来ていただきたいという話がいっぱいあったんだけ

れども、社会教育課のほうでもそのマッチングをうまくサポートしていただけたらいいのかなと思いました。やっぱりこっち側だけで個人で探してもあまり仕方がないので、うまくそういうシステムが出来上がるといいのかなというふうに今日聞いていて思いました。どうぞ本当に頑張ってくださいと思いました。ありがとうございました。

松戸史談会 よろしく願いいたします。

長江委員長 本当に様々なこういう場というか、一緒に話をする事でアイデアがどんどん湧いてくるかと思います。

松戸育ちなので、松戸は本当に村単位、町単位の合併によって大きくなったまちなので、先ほどの話ではありませんけれども、それぞれの例えば私、高木小学校なんですけれども、旧高木村の小学校なんですね。そうすると、そのエリアの伝統文化というのがやっぱり存在しているわけですね。そこにやっぱり根っこがあるということは、幸せなことだなというふうに思いますので、ぜひお願いしたいのと、それからあと会員になるためのハードルというのは、例えて言えば、学生とか子ども会員とか、そういう場合にちょっと会費を安くしていただくとか……

松戸史談会 検討します。

長江委員長 あるいは、お金は出せないけれども、知恵を出すとか、あるいは少しWordを打ってあげるとか、そういうようなお手伝いもできるようなシステムというのもぜひ考えていただけると広がるんじゃないかなと。

実は、聖徳大学というところは6学部2学科ありまして、6学部は4年制大学、それから2学科が短大なんです。それで、様々なものがあって、その中に逆に言うと、歴史のコースも実はあって、文学部には歴史に関するコースがありますし、そういうようなちょっと深めに学びたいという学生もいますけれども、短大生のほうは、それこそ遊びの中というか、手遊びとかそういうのも入れて、曲の中で子どもたちと一緒に踊って、徳川昭武について知りたいな、そういうような歌を作ったり、手遊びしたりみたいな、短大は二十歳で卒業ですけども、極めて若い保育士さんとか、幼稚園の先生になるような人たちもやっぱり松戸で学んでいるということは、松戸を知りたいと思うことの第一歩、そういうようなことを松戸市とコラボでやっていくこともあるので、でき得る限り史談会様とうまくマッチングができるといいかなというふうに思いました。先ほど大成先生のほうからもあったんですが。

松戸史談会 ぜひお願いしたいと思います。私どもも。

長江委員長 やっぱり時代はアクティブラーニングといって、自分たちはやっぱり頭も働か

せるんですけれども、体も動かして、ワタナベ先生という先生がいらっしやいまして、中学校のときの社会科の先生で、私が弟子の一人なんですが、すごい情熱いっぱい松戸を語るという先生が当時おられまして。

松戸史談会 はい。存じ上げております。

長江委員長 高木小もそうなんですけれども、そういうところで先ほどのふるさと感というか、根っこが張っている分だけやっぱり強いというか、そういう意識というか、プライドを松戸市に持っている、そういうところをうまくそれこそ保育園からお年寄りの施設まで、行けるところはいくらでも出前講座があるかなと、そういうふうに思うので、ぜひ長い生涯学習、子どもからお年寄りまで守備範囲が広いと思いますので、ぜひ優しく広げていただいたらいいんじゃないかなと思いました。

松戸史談会 そのチャンスをぜひ与えていただきたいと願っております。

長江委員長 松戸の助成金を頂いているということも一つのチャンスじゃないかと思うんですね。こういう機会をもっともっとつくって、社会教育がつながっていけば、よりよい暮らしの豊かさになると思いますので、今日は本当に寒い時期に、雨も降っているのに来ていただきまして、本当に感謝いたします。ありがとうございます。

松戸史談会 こちらこそありがとうございます。お時間頂戴いたしまして。

長江委員長 それでは、意見交換に関してはこれぐらいでよろしいでしょうか。また、これを一つのきっかけに進化させていただくという形でよろしく願いいたします。

松戸史談会 よろしく願いいたします。

長江委員長 それでは、進行を事務局にお返ししたいと思います。よろしく願いいたします。また、傍聴の方はご退室をお願いいたします。

(傍聴人退室)

◎閉 会

事務局 では、以上をもちまして、令和5年度第2回社会教育委員会議を終了させていただきます。

お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございました。